

東京都済生会中央病院にご入院された患者さま及びご家族の方へ（臨床研究に関するお知らせ）

当院では以下の臨床研究を実施しております。本研究では、診療で得られた過去の検査情報をまとめることにより行います。このような研究は、厚生労働省の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合は、研究対象者といたしませんので下記のお問い合わせ先までご連絡下さい。その場合でも患者さまに不利益が生じることは一切ありません。

【研究課題名】

緊急心臓カテーテル治療における心原性ショック発生に関する検討

【研究責任者】

内田 菜月（臨床工学科）

【研究機関】

東京都済生会中央病院 集中治療科 臨床工学科

【本研究の目的】

心原性ショック時に補助循環の早期介入は患者の死亡リスクを低下させる為に有効です。心源ショックの早期対応には大動脈内バルーンポンピング術(IABP)や経皮的心肺補助法(PCPS)が一般的です。早期介入する為には的確な人員配置が必要です。今回、心源性ショックに至った緊急カテーテル治療時の冠動脈病変数と冠動脈病変部位とを比較することで、心原性ショックに至る冠動脈病変を予測・検証し、今後の心原性ショックに対する、人員配置や準備の効率化・安全性を高める事を目的としております。

この研究は通常の診療で行われた患者さんのデータを利用する研究です(観察研究です)ので、この研究に参加することにより治療法が変わることはありません。

【情報の他の研究機関への提供及び提供方法】

単施設研究であり、他院へ個人情報を提供する予定はありません。

【調査該当期間】

2010年1月から2022年12月まで

【研究方法】

対象となる患者さん：上記期間に当院で緊急心臓カテーテル治療を実施した患者さん

利用する情報：カルテの診療記録→年齢、性別、身長、体重、主病名又は術名

臨床データ→心拍出量、SpO2、動脈圧、採血データ（トロポニン、CK、BNP）

上記の情報をカルテより個人情報がわからないようにして抽出します。

【本研究の資金源】

本研究に関連し、開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。

【お問い合わせ先】 電話 03-3451-8211

担当者 東京都済生会中央病院 臨床工学科（内線 5631） 内田菜月、東海林雄太